

市民生活を支えた ガスと風呂の歴史

現在、私たちが毎日快適に利用している家庭のお風呂は、長い時間をかけて改良されてきました。ガスとお風呂の関係から、その変遷をたどってみましょう。

江戸～
明治・
大正期

お湯が貴重な時代

まだガスがなく、生活のインフラもほとんど整理されていなかった時代。人々はまさに風呂を沸かしたり、たらいにお湯を張って行水していた。

昭和
初期～
1950年代

ガスの利用が拡大 団地にもお風呂が登場

昭和初期、ガスは明かりとしての利用から熱利用に替わり始め、一般家庭でもお湯が少し身近な存在になった。1950年代後半以降、当時建築された団地にお風呂が備え付けられるようになった。

1960年代
～
1970年代

進化する団地のお風呂

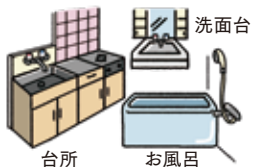
1960年代になると家のお風呂が急速に普及。都会的な暮らしの象徴となった団地は、お風呂も進化。ガス器具も備え付けられた。ハンドシャワーが普及し始めたのもこの頃。



1980年代

家庭でお湯が豊富に使える時代

ガス給湯器が小型化しつつも給湯能力は向上。お風呂でも洗面所でも、いつでもどこでもたっぷりとお湯が使えるようになる。お風呂にリモコンが付き始めた。



1990年代

スイッチ・ポンでお湯が沸く時代

お風呂のリモコンが普及し、全自動風呂給湯器の登場やシステムバスの導入によって利便性・快適性が向上。「朝シャン」してから学校や会社に行く人も急増した。



2000年代

省エネを意識する時代

省エネの大切さが叫ばれ始めた時代。少ないガス量で効率よくお湯を沸かす省エネ性の高い給湯器「エコジョーズ」が誕生し、家庭の省エネを実現した。

2010年代

省エネから創エネへ

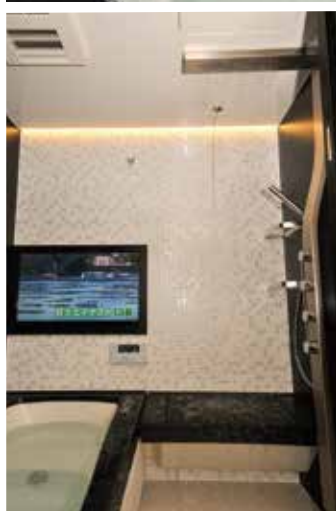
大震災を経て住まいの意識が変わり、省エネ&創エネに対応した家が好まれるようになる。ガスで電気を創るエネファームも登場。



現在～

持続可能な暮らしを目指す時代

暮らしだけでなく地球環境のことも考えながら、ガスとお湯を進化させる時代に入。省エネ・創エネと良好で持続可能な温熱環境が求められている。



1963年ごろ、日本住宅公団(現UR都市機構)のお風呂は木製の浴槽が使用されていました。(写真右)

その後、FRP(ガラス繊維強化プラスチック)製、ほうろう製へと改良が進み、保温性・耐久性・量産性が追求されました。現在は肩や首へお湯を掛ける循環装置や、頭上から様々な水流のお湯を流す固定式シャワーなど、より快適な入浴が楽しめる装備も登場。自宅での入浴の質が高まっています。(写真上、左)



写真提供/UR都市機構

便利で快適! 家庭のお風呂

暮らしを変えたガスとお湯

いつでも好きな時に、きれいで温かいお湯に浸かることができる家のお風呂。今やそれはすっかり当たり前の設備ですが、どのようなにして一般家庭にお風呂が普及したのか、ご存じですか?

家のお風呂は 団地から広がった

現代では、お風呂は大多数の家に当然のように存在します。どのような経緯をたどってきたのでしょうか。

住宅や設備の歴史的背景、動向に詳しい一般財団法人ベターリビングのアドバイザー、村田幸隆さんにお話を伺いました。

「一般の家でお風呂が設置されるようになった経緯には、ガスの供給が関わっています。」

日本でガス事業が普及し始めたのは1900年ごろ。当初、主な用途はガス灯など明かりでした。次第にコンロやストーブなど、熱利用としての範囲が広がりました。

昭和初期頃には、かまどなど

炊事にも活用されるようになりましたが、お風呂はまだ、たらいにお湯を張って体を拭いたり、銭湯に行ったりするのが一般的。お風呂を備えることができた家庭は、わずかな富裕層に限られていました。」

ところが戦後しばらくすると、状況は一変します。「一般の家庭に、お風呂が備わり始めた」と村田さんは言います。

「きっかけとなったのが団地です。戦後の住宅不足解消を目的に、1955年に設立した日本住宅公団(現UR都市機構)が、日本各地に団地を建設し始めていました。その団地にお風呂を備えていたのです。高度成長期の1960年代に入ると団地は日本全国に急拡大。お風呂付き物件が、当時の家屋の理想型と



現在、機能的で美しいデザインを採用した浴室が急増。従来より少ない湯量でも足を伸ばし肩まで浸かれる浴槽でゆったり入浴できます。

されました。次第に戸建て住宅にも備えられるようになり、一般住宅でもお風呂の設置が当たり前になりました。」

その後、家のお風呂は、素材、デザイン、装備と、多くの要素で進化してきました。

浴槽の耐久性は向上し、一度沸かしたお湯が冷めにくくなりました。また、ハンドシャワーの登場で、体を洗うことが手軽になるなど、より便利で快適なものになりました。

「近年では細かな気泡をお湯に含めることで、比較的低い温度

でも体が十分に温まるマイクロバブル機能も登場しました。お湯の温度を抑えるお風呂は、省エネと健康の両方にアプローチすることが期待されています。

この傾向は、これからますます強まり、さらなる進化を遂げていくはず。」

一般家庭にお風呂が入り始めてから約50年。私たちは便利で快適なお風呂を手に入れました。入浴は私たちの日常生活の一部となり、毎日好きな時間にお風呂に入ることができるようになったのです。